

◆2002～2003 年をふりかえる◆

本日は、ランバンサリ公演「青銅音曲V」にご来場いただきまして、ありがとうございます。この1年も、さまざまな演奏の機会に恵まれ、充実した活動を行うことができました。各方面でご尽力をいただきました皆様に、心よりお礼申し上げます。

昨年7月7日には、初めての海外公演をソウルで行い、韓国の皆さんと交流ができたことが、貴重な体験となりました。また10月2日には、インドネシアの人気舞踊家ディディ・ニニ・トウォ氏をランバンサリ・スタジオにお招きし、ジャワ舞踊のレクチャー・デモンストレーションを開催しました。私達の演奏でガンピヨンを踊っていただいたのが、楽しい思い出のひとつです。次回はぜひ舞台の上で共演できれば、と夢が広がっています。

演奏活動記録

2002年 2月2日～3日	自主公演「青銅音曲IV」(日暮里サニーホール)
2月12日	ジャワガムラン体験講座(ランバンサリ・スタジオ)
3月4日	ガムラン鑑賞教室(茂原市立茂原中学校)
4月16日	ジャワガムラン体験講座(ランバンサリ・スタジオ)
4月20日	アジア・リゾート・フェア(日本橋高島屋)
4月23日	ガムラン演奏交流会(東京芸術大学)
6月5日	ガムラン鑑賞教室(小平市立第六小学校)
6月8日	ガムラン鑑賞教室(和洋国府台女子中学校)
6月9日	ジャワのガムランと舞踊(横浜上大岡ひまわりの郷)
6月12日	ガムラン鑑賞教室(町田市立第六小学校)
6月18日	ガムラン鑑賞教室(杉戸町立泉小学校)
6月18日	ジャワガムラン体験講座(ランバンサリ・スタジオ)
6月21日	文化教養講座(文京学院大学ホール)
6月23日	ギャラリーコンサート(ギャラリームウ)
7月7日	日韓音楽交流演奏会「インドネシア・ジャワのガムランと舞踊」(POLIMEDIA Theater／韓国・ソウル)
7月28日	百観音献灯会(百観音明治寺)
8月23日～24日	夜咲く花とガムラン音楽・舞踊の夕べ(夢の島熱帯植物館)
8月31日	アジアワールド・イン・グランシップ～ジャワ島のガムランワークショップ(グランシップ交流ホール／静岡)
9月23日	十六夜コンサート～小島夕季ジャワ舞踊の夕べ(上野公園水上音楽堂)
10月5日	ジャワ更紗展～ガムランコンサート(遠山記念館)
10月15日	ジャワガムラン体験講座(ランバンサリ・スタジオ)
10月19日	Jawa Night at ケセラ(ケセラ／白金台)
10月25日	ガムラン鑑賞教室(静岡県小笠原郡大東町立大坂小学校)
10月30日	ガムラン鑑賞教室(横浜市立永田小学校)
11月1日	ガムラン鑑賞教室(杉戸町立杉戸小学校)
11月12日	ガムラン鑑賞教室(埼玉大学教育学部附属小学校)
11月13日	ガムラン鑑賞教室(墨田区立第二寺島小学校)
11月14日	アジアワールドフェア(有楽町マリオン)
12月10日	ジャワガムラン体験講座(ランバンサリ・スタジオ)
12月15日	NHK 放送研究所～研究用音源収録(NHK・CR509 スタジオ)
12月24日	東京カフェ・グラン「クリスマス・ライブ」(東京駅)
2003年 1月16日	ムティアラ・インドネシア人形劇団来日公演「ワニの贈りもの」(バライ・インドネシア)
2月11日	自主公演「青銅音曲V」(日暮里サニーホール)

「多聞天」活動記

2002年 2月15日	第9回 アジア文化講座「アジアの楽器／太鼓の仲間」森重行敏 (会場は全てランバンサリ・スタジオ)
4月6日	スタジオオープン3周年記念特別企画「Pinoca Live」
5月12日	第15回 満月の夜の会「ランラン・ガムラン～春のマニョロ祭」
7月17日	第16回 満月の夜の会「Noche Live」
9月25日	第10回 アジア文化講座「アジアの楽器特別編／日本のうた」森重行敏
10月2日	第11回 アジア文化講座「ジャワ舞踊～ソロ様式とジョグジャ様式」講師：ディディ・ニニ・トウォ
11月17日	第17回 満月の夜の会「ランラン・ガムラン～美味しいガムラン」
2003年 1月24日	多聞天 Presents Special Live 「Pinoca の部屋」
※この他、毎月最終日曜日にパティック講座(講師：中右絢子／会場：ランバンサリ・スタジオ)を開催。	

佐久間 新さんインタビュー

今回、古典と創作の2つの舞踊を観せて下さる佐久間新さんに、舞踊のこと、ウィヤンタリさんとの出会いのことなどを伺いました。

インドネシアやガムランに興味をもったきっかけは？

大学に入ったときにサークル紹介があって、たまたまそこを通りかかったら、ガムランの演奏をしていたんです。録音などでは聴いたことはありましたが、生で聴いたのはそれが初めてで「ああ、いい音だなあ」と思いました。それからしばらくして、大学のガムランサークル「ダルマ・ブダヤ」に入りました。

舞踊に興味を持ったのは？

確か1989年だったと思うのですが、東京で「東西の地平音楽祭」というイベントがあって、そのときにダルマ・ブダヤのメンバーとして僕も出演したのですが、ちょうどチルボンのガムランと舞踊の人が来日していた。その舞踊を観て「ああ、すごいなあ、おもしろいなあ」と思いました。

インドネシアにはバリやソロ、スنداなどいろいろな地方の舞踊がありますが、なぜ、ジョグジャの舞踊を選んだのですか？

なぜジョグジャの舞踊を始めたかといえば、ジョグジャに留学したからで、ソロでもよかった。まあ、たまたま(笑)。とにかく、ジャワ舞踊がやりたかった。当時、ソロの舞踊をやっている人が多かったんです。もともとちょっと天邪鬼な部分があって、みんなソロばかりやっているから、それなら自分はジョグジャの舞踊をやってみようかな、というのもありました。

ジョグジャで舞踊を習っていて、大変だったことは？

留学したときはもう、僕は25歳でした。そのくらいの年で大学に入ると、みんな1年生だから18歳ぐらいでしょう。しかも外国人で男性で、踊るとみんなに笑われたりで……。

女性の方が多かったのですか？

僕がいたクラスは、全部で30人ぐらいで男性が僕を含めて5人。他の男性4人は、みんなインドネシア人でした。そうやって笑われたりしながら、習っていく過程で何度か壁にぶつかって「ああ、難しいなあ。僕にはできないのかなあ」と思ったりする。でも、やっていくうちになんとかクリアしてできるようになって、また壁にぶつかって……という繰り返しでした。

習い始めたときは、僕はとにかくジャワ人みたいになりたくてしょうがなかった。だから、食べるものをまねしてみたりとか、クラスで踊りのうまい男の子が爪をのばしていたら、一緒になつてのばしてみたりとかしていました。

今もまだ階段の途中で、どこま

で登れるかわかりませんが、少しずつ登っていったらいいな、と思っています。

ジャワの年輩の舞踊家の舞踊を観ていると、「ああ、僕はいつまでたってもあんな風にはなれないのかなあ」と思ったりするんですが、それでも、少しでも近づけたら、と思って登ってみたいです。

ジョグジャに留学して、人生が大きく変わったことのひとつがウィヤンタリさんとの出会いではないかと思いますが……。

人生の一つの転機ではあったと思います。舞踊が好きで習いたいと思ってジャワへ留学したわけですが、まさか、こういうことになるとは思っていませんでした。もちろん、変わっていきたくかったのですけれど。

ウィヤンタリさんとは同じ学校だったのですか？

僕がインドネシア国立芸術大学に入った年に、彼女はもう最終学年で卒業制作をしていました。僕は大学の他、サスミント・マルドゥオ舞踊団でも舞踊の勉強をしていたのですが、彼女はそこの先輩でもあったのです。大学は、僕が入ったらすぐ彼女は卒業だったので、どちらかといえば、その舞踊団の方で知り合ったといえますね。その舞踊団に入って2年半ぐらいのときに、二人で一緒に踊る機会があって、それがつきあいの始まるきっかけとなりました。

ご結婚されたのはいつですか？

2000年の1月。だからちょうど結婚して3年になります。

ウワサでは、佐久間さんがジャワで入院されたときに、ウィヤンタリさんがずっと付き添われていたとか。それはご結婚の前ですか？

結婚前です。98年頃かな。

それがきっかけでご結婚されたのですか？

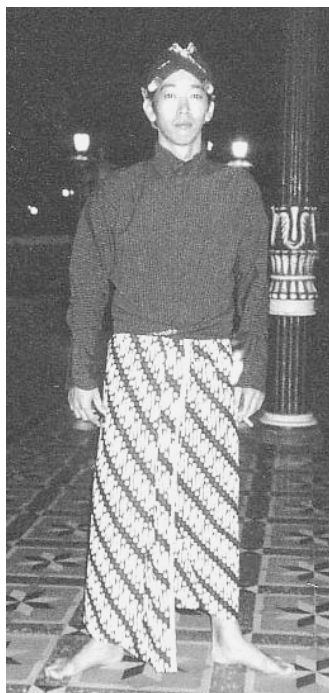
いや、その頃にはもう、結婚しようか、という話になっていたんです。

ウィヤンタリさんは、佐久間さんに結婚を申し込まれたとき、日本へ行くということも考えてどう思われましたか？

(W) 最初は考えました。「ああ、ガイジン、どうしよう！」と(笑)。

今はもう日本の生活に慣れましたか？

(W) ええ、慣れました。



こうして二人で一緒に踊ることができて、楽しそうですね。

まあ、一緒に踊れる、というのは楽しいですね。普通一般的にペアで舞踊をするときも、なるべく相手の人と一緒に長い時間を過ごして、舞踊だけでなくいろんな面で息が合ったほうがやりやすいと言いますが、結婚して一緒に生活して、一緒に踊っていると、だんだん、だんだん、息が合うようになってきているところがある。これをずうっと続けて、結婚 10 年とか 20 年とか経つと、もっと息が合っておもしろくなっていくかな、と思います。まあ、途中でケンカしたりとか、そういうのもまた舞踊に現れたりして、変化していくのだと思います。

新しい作品を創っていく際に、どこからインスピレーションがわいてくるんでしょうか？

僕たちは、古典的な舞踊を学ぶというのがまずあって、それとともに、自分たちでも何か創ってみたいという気持ちがあります。ジャワの人でもガムランの音楽にあわせて体を動かすという即興的な舞踊をする人がいますが、僕たちも、伝統的な体に染み込んだものを大事にしながらも、自分たちのスタイルを模索しているところです。ある種舞踊家って、ラジオというか受信装置みたいなところがあって、ガムランの音だとか、そこの空間の雰囲気だとか、一緒に踊っていたら相手の人の波長だとか・・・そういうものが体の中にフツと入ってきて、それをうまく自分の中から出していくみたいな感覚があると思うんです。古典的なものは振るも楽曲も決まっていて、それはその通りやっているんですけども、今回ランバンサリと一緒にやる曲もそうですが、舞踊がついていない曲でも、聴いていると、なんかこう動きたくなるみたいな感じがある。舞踊の曲じゃないから、今まで誰も振りをつけていないので、とりあえず自分で体を動かしてみて、そこに動きがシルエットとして出てくるみたいな・・・そういう感じにできたらいいなあと思います。考えて組み立ててやっていくというよりも、音楽が体に入ってきて、体が自然に動いていけばいいなあ。

いろいろな種類の舞踊をするというのは、役者がそれぞれの役を演じるような感じでしょうか？

僕は役者でないからよくわかりませんが、たぶん 10 年間役者活動をしていたら、たくさん役をやるでしょう。でも、舞踊はそんなにたくさんはできない。トベン（仮面舞踊）をやるか、クラトン（王宮）の舞踊をやるか、創作をやるぐらい。そんなに数が増えるわけじゃない。2 月にこういう公演があるから徐々に役作りに入っていくというよりは、日々ずっと積み重ねて、だんだんとジャワ舞踊をするにふさわしいような人間になっていければいいな、と思います。

ジャワのすごい先生って、とてもおだやかな感じで、一緒にこうやって横に座っているだけでも、周りも落ち着くような人柄の人がいるじゃないですか。そういう風な感じで、踊っているときだけでなく、人間がそういう感じになっていって、舞踊にもそういうものが現れてくるのが一番いいんじゃないかと思います。舞踊と共に日々の生活を通して自分を磨いていくみたいな感じでしょうか。

形を美しく見せるということだけでなく、精神修養的な部分も大事だと・・・。

ジャワの先生と話していると、ガムランをやっている人でも、例えばグンデルを弾いている人がいて「あの人うまいな」というふうに聴こえていたらダメだって言う。そういうのはすごくエゴイズ

ムだって。とびだしているっていう感じはダメだって。舞踊の方も同じで「あ、すごいまい」というのはよくないって。

でも、やっているをやっぱり力が入って、なかなかそんな風にはできない。初めから「枯れる」ことはできない。だから、最初はできるだけ幅をひろげて、徐々に削っていって、最終的には大事なもののだけを残していきたい。だから、今はちょっとヘンな舞踊（笑）もやったりしているわけです。

日本的な作品を創りたいというお気持ちはありますか？

僕は今、ジャワ舞踊をしていても、日本的なものはどこかに出ていると思っています。さきほど、僕はジャワ人みたいになりたいと言いましたが、ジャワ人みたいにはなれるけど、どうやったってジャワ人にはなれない。ジャワ舞踊をやっていく上で、日本的なものはマイナスになっている部分もあるかもしれない。でも、日本人だけジャワ舞踊をやっていて、ああいう風になるのか、って観てもらえたらいいなと思う。今後日本的な要素を取り入れて、というのも、もしかしたらやるかもしれませんが、今のところは考えていません。

今回の公演で、お二人の舞踊の見どころは？

まず、古典舞踊「クロノ・アルス」ですが、ジャワ舞踊をする日本人の男性はあまりいないと思いますので、珍しいものを楽しんでもらえれば（笑）。それと、ジョグジャの舞踊の清々しさのようなものがうまく出せて、観ている人にそれを感じていただけたらと思います。

創作舞踊「ドゥイ・ロソ・トゥンガル」の見どころは、「二面性」「静と動」です。ジャワ舞踊でもトベン（仮面）をつける舞踊は、割と激しい部分があるので、そういう二面性を見てもらえたらいいなあと思います。静の部分は割と抑制した、自分の感情を抑えた感じ。トベンをつけた部分も、あれは自分の感情が荒れ狂うというよりも、自分の中を空っぽの状態にして、なにかこう、狐つきみたいな、何かが入ってきたみたいな、仮面をつけることによって何かがのり移ったみたいな・・・そういう感じで、ガムランの音が体に入ってきて、その響きが僕たちをあやつるみたいな、そういう風にできればいいなと思います。

ウィヤンタリさんはいかがですか？

(W) 二人の共同作業、コラボレーションを見て欲しい。いいコラボレーションができればうれしいです。

(佐久間) 今回日本人が 3 人ジャワの古典を踊って、あなたはジャワ人で創作舞踊。ヘンですね（笑）

(W) うらやましい。古典も踊りたいです。

2003 年 1 月 12 日東京にて
聞き手：保坂路代





ランバンサリ・多聞天 今後の活動予定

バティック講座

マイペースで作品作りに取り組めるのが特徴です。ハンカチなどの身近なものから、カインパンジャンという一枚布まで、幅広くご指導します。エスニックの薫りあふれる小物からウェアにインテリアに生活の彩りにお楽しみください。

日時：3月 2日(日) 午後1時～4時

3月30日(日) 午後2時～5時

会場：ランバンサリ・スタジオ

講師：中右絢子(なかう あやこ)

用意するもの：エプロン、4Bの鉛筆、洗濯ばさみ4つ。その他の材料、道具等は先生が準備して下さいます。

参加費：3,600円(一般)

3,100円(友の会正会員)

*初回はハンカチ布代が別途かかります。

日曜ガムラン

どなたでも楽しめるガムラン練習。初心者大歓迎。1回だけの参加もOKです。継続して参加したい人には更にオススメです。

日時：2月16日(日) 午後4時～6時

3月16日(日) 午後4時～6時

会場：ランバンサリ・スタジオ

参加費：2,000円

ランバンサリ演奏メンバー募集中!

私たちは、一緒に演奏活動できる会員を随時募集しています。学生、会社員、主婦 etc. 経験は問いません。興味のある方は、ぜひご連絡下さい。

練習場所：ランバンサリ・スタジオ

(JR浜松町駅南口 S5 階段金杉橋口より徒歩1分)

練習日時：毎週月曜日 午後7時～9時

毎週土曜日 午後5時～9時

第1・第3日曜日 午後4時～6時

メール通信会員募集中

ランバンサリ・多聞天の今後の活動予定を掲載した「ランバンサリ通信メール版」を無料でお送りしています。ご希望の方は「ランバンサリ通信メール版希望」とお書きになり、お名前とメールアドレスを下記アドレスまでお知らせ下さい。

メール通信担当 e-mail : baoban@nifty.com



グトは韓国でも大ウケ!



2003.1.24 多聞天 Presents Special Live

! Pinoca " # \$ %

お客様の熱いご要望にお応えして、再度、ランバンサリ・スタジオに出演していただいたピアノとハーモニカによるユニット「Pinoca」今回もオリジナル曲に加え、誰もが聴き覚えのある懐かしい曲を Pinoca 流にアレンジして披露してくれました。中でも「スタイロホン」なるペンで演奏する奇妙な楽器の登場には、皆大爆笑!

そして、ゲスト(?)として登場した、我らが歌姫村上圭子さん! 「ブンガワンソロ」と「グト」の2曲を美しく歌っていただきました。ガムラン演奏では既におなじみの「グト」ですが、ピアノとハーモニカの演奏によるものは、私たちにとってはかなり新鮮。合間に入るジャワ語での掛け声もバッチリ決まっていました。ライブ終了後「いや～ピノカっていいですね～」との声が多く寄せられ、今回も楽しいひとときとなりました。

♪Pinoca 情報♪東宝映画「ラバーズ・キス」のサウンドトラックCDがデジキューブより、全国コンビニにて只今発売中です。



韓国の人たちとの交流が楽しかったワークショップ

■お申し込み・お問い合わせはハガキ、Tel.、Fax.、e-mail のいずれかで、住所、氏名、講座・公演名を明記の上、お申し込み下さい。

■ランバンサリ事務局■

Tel. & Fax. 03-5300-6361 (木村)

e-mail: o-moon@zd5.so-net.ne.jp

■ランバンサリ通信 2003年 No.1■ 青銅音曲V特別号

発行：ランバンサリ通信編集局

編集：村上圭子 保坂路代

2003年2月11日発行